



木木

千葉県 TEACCH プログラム研究会
2017年12月16日 第93号

「森」字・佐々木正美
イラスト・竹蓋伸六

発行：千葉県TEACCHプログラム研究会広報部

事務局：千葉県発達障害者支援センターCAS内 TEL 043-227-8557

ホームページ：<http://www5e.biglobe.ne.jp/~teacch/site17.htm>

平成29年度 第4回 連続セミナー

今回は、神奈川県自閉症児・者親の会から2名のお母様にお越しいただき、子育てや自立して暮らすということについてご講演いただきました。



「大人になったASDの人の暮らし 一緒に生きるー」 高橋 和江氏

高橋さんのお子さんであるYさんは、現在、特例子会社で勤務する27歳、休日には、東京まで地下アイドルのライブに行ったり、友人と映画に行ったりと充実した日々を過ごしているそうです。そんなYさんに成長するまでの子育ての大変さ、就労までの道のり、現在の生活について具体的なエピソードを交えてお話ししいただきました。

Yさんが小さいころから「普通でないのでは」という不安を感じていた高橋さん。3歳7か月でYさんが「自閉症」と診断された後、ノースカロライナで研修を受けた心理士さんとの出会い、自閉症について勉強を始めたそうです。その後、「将来働く大人になってほしければ家事をやらせなさい。」との助言を受け、家事を教えたことが、のちの就労に結び付くことになったと話されていました。

障害名の告知と進路選択についての説明は高校時代に行ったそうです。医師からの告知後、高橋さんが作成した進路の文書を見せながら「(療育)手帳を使って就職するはどうですか」と説明したところ、Yさんが「(療育)手帳を使って就職するので手伝ってください」と手帳を使っての就職を選択されたとのことでした。高橋さんは「眼から情報を入れることの有効性を改めて感じた。話すことばだけでは理解できなかったかも…。」と話されていました。高校卒業後、就労のために訓練校を選択、企業実習を経て〇〇株式会社の実験器具洗浄室に就職されたそうです。「10年間やってきた家事(皿洗い)が仕事につながった。信じてやってきたことが報われた」と思ったそうです。また、企業は仕事の効率を重視し、仕事場は構造化されており働きやすいともお話ししていました。

高橋さんが、子育てで心かけたこととして次の6点を挙げて下さいました。
・「助けてください」「手伝ってください」「教えてください」が言えるようにする。なんでも一人でできるようになることは目的としない。

- ・多すぎる課題は「減らしてください」が言えるようにする。無理しなくてすむように。
- ・大人への依存度の高さを良い方向へ使う。教って覚える態度を育てる。
- ・お金の価値がわかるようにする。どうやったらお金が手に入るか、どういうことに使うか。それを働く動機とする。
- ・一人上手は強みだと見えるようにする。友だちは作るものではなく、自然にできるもの。
- ・好きなことを楽しみましょう。でも、実年齢より幼い趣味は人から驚かれることがあることを伝えておきましょう。

最後に「TEACCHが教えてくれたことが、子育ての指針になっている。多くの支援者に学んでほしい。」とまとめて下さいました。いろいろな経験や御苦労をポジティブに捉え、一歩ずつ歩まれている姿が、多くの保護者に勇気を与えてくださったと思います。教育者としても大切にしなければならない視点を改めて教えていただきました。



「大人になった重度の人の暮らし 一地域で自立して楽しく暮らそうー」 山口 一美 氏

山口さんのお子さんであるSさんは、現在、グループホームに入居し就労継続支援B型(就労の一形態)の仕事をしています。「お仕事を頑張り、『ラブライブ』と『ディズニー』をこよなく愛する28歳」と紹介がありました。旅行が大好きで、国内外のディズニーランドにも二人で行かれるというアクティビティな仲良し親子ですが、Sさんが小さいころは、子育てが辛かったと話されていました。「1歳4ヶ月で歩き始めた途端に超多動！1歳半で発語なく、何かが違うと思いながら、でも、怖くて自分の不安と向き合えない。」2歳半で診断を受け、その時の気持ちを「暗闇のトンネルに進んでいく。」と表現されていました。その後、通園施設で保育士さんや同じ悩みを持つ保護者と出会い、就学や色々な壁にぶつかりながら、自分の中のキャバを広げて障害を受容していったそうです。

山口さんはご自身の子育て経験から「**自閉症児子育ての座右の銘**—若いお母さんへのエール」として次の3点について話されました。

- ・「**療育とダイエットに王道なし**」

療育を施す側には楽な道(手抜き)はありませんが、それによって子どもは楽に生活できるようになる。親もいすれ楽ができる。

- ・「**芸能人は歯が命、自閉症児は眼が命**」

百聞は一見に如かず、ごちゃごちゃ言うより、わかりやすい環境を整え視覚に訴える。

- ・「**ライバルは去年の我が子**」

他の子どもと比べても辛いだけ。我が子の成長を喜ぼう！

また、皆さんに伝えたい大事なこととして「苦手なことより得意なことを伸ばす方が親子で楽。」「行きあたりばったりはやめる。その日の予定は必ず提示。」「**自閉症の特性を理解されずに苦手なことを無理強いしてきた子は、思春期以降につまずく子が多い。これは知的水準によらない。**」「**子どもが児童のうちに地域で余暇を楽しめるよう仲間とのネットワークを作りましょう。**」と話されました。そして地域で自立して暮らすためには「**一人でできることを子どもの頃から少しずつ増やす。ヘルプをだせるように周囲との信頼関係を築く。**」「**フォーマル、インフォーマルに関わらず多くの支援者に支えてもらう。**」ことが大切であると教えてくださいました。

山口さんのお話の中で一番印象的だったのは「**幸せな人生って何だろう。** S(さん)は今のS(さん)のままでいい。障害特性を理解してもらいながら、得意なことを伸ばしていくってほしい。でも、「自閉症」の知名度は上がったものの、適切に理解されるにはまだ遠い。だから、「自閉症療育者のためのトレーニングセミナー」の実行委員長を担っている。**自分の子どもだけを大事にしても、子どもの人生は広がらない。個人の力は小さいが、組織として働きかけることで社会は変えていく。その恩恵はいつか我が子に返るはず。**」というくだりです。誰もが自己実現を図れる共生社会を作っていくため、一人一人がそれぞれのフィールドでできることをすることが大切だということ、その深い想いと実行力に心から敬服しました。

高橋さん、山口さんのお話からたくさんのこと学びました。ありがとうございました。

平成29年度 TEACCHプログラム研究会 第6回連続セミナーのお知らせ

日時：平成30年2月25日（日） 13:30-16:30（13:00 受付開始）

内容：家庭・学校・施設の実践報告 講師：未定

会場：きぼーる13階会議室1・2・3（千葉市中央区中央4-5-1）（予定）



（編集後記）千葉県教育委員会では平成29年10月に、「第2次千葉県特別支援教育推進基本計画」を策定しました。障害のある子どもたちの自立と社会参加に向けてその能力や可能性を最大限に伸ばすため、豊かに暮らすため、共生社会の基礎を培うための基本計画です。コラムもありわかりやすい内容となっていますので、ぜひ、県教育委員会のHPからご覧ください。（金坂）